

2 結果の概要

2.1 関心のある環境問題

関心のある環境問題を複数回答で聞いたところ、「地球温暖化」が最も多く、72.0%であった。次いで「大気汚染」の47.2%、「森林の減少」34.4%となった。

関心のある環境問題の上位6位までの項目は昨年度から今年度にかけては変化がない。過去の調査と比較すると、地球温暖化は平成13年度以降変わらず1位となっている。しかし、その割合を時系列でみると、平成21年度の80.6%から年々減少してきているが、一昨年度から今年度にかけては増加している。

大気汚染は平成14年度以降常に5位以内となっているが、その中で一度順位が下がったものの再度順位に上昇傾向がみられる。森林減少も、平成18年度以降常に4位以内と高い関心がみられる。

年代別ではいずれの問題も高齢者層の関心が高くなっている。

関心のある環境問題は、地域性が大きく、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」については、関東では33.5%、中部では31.3%であるが、それ以外の地域はいずれも30%未満となっている。また、大気汚染、黄砂は九州・沖縄でそれぞれ54.9%、39.3%と最も多く、黄砂は西日本側で高くなる傾向がある。

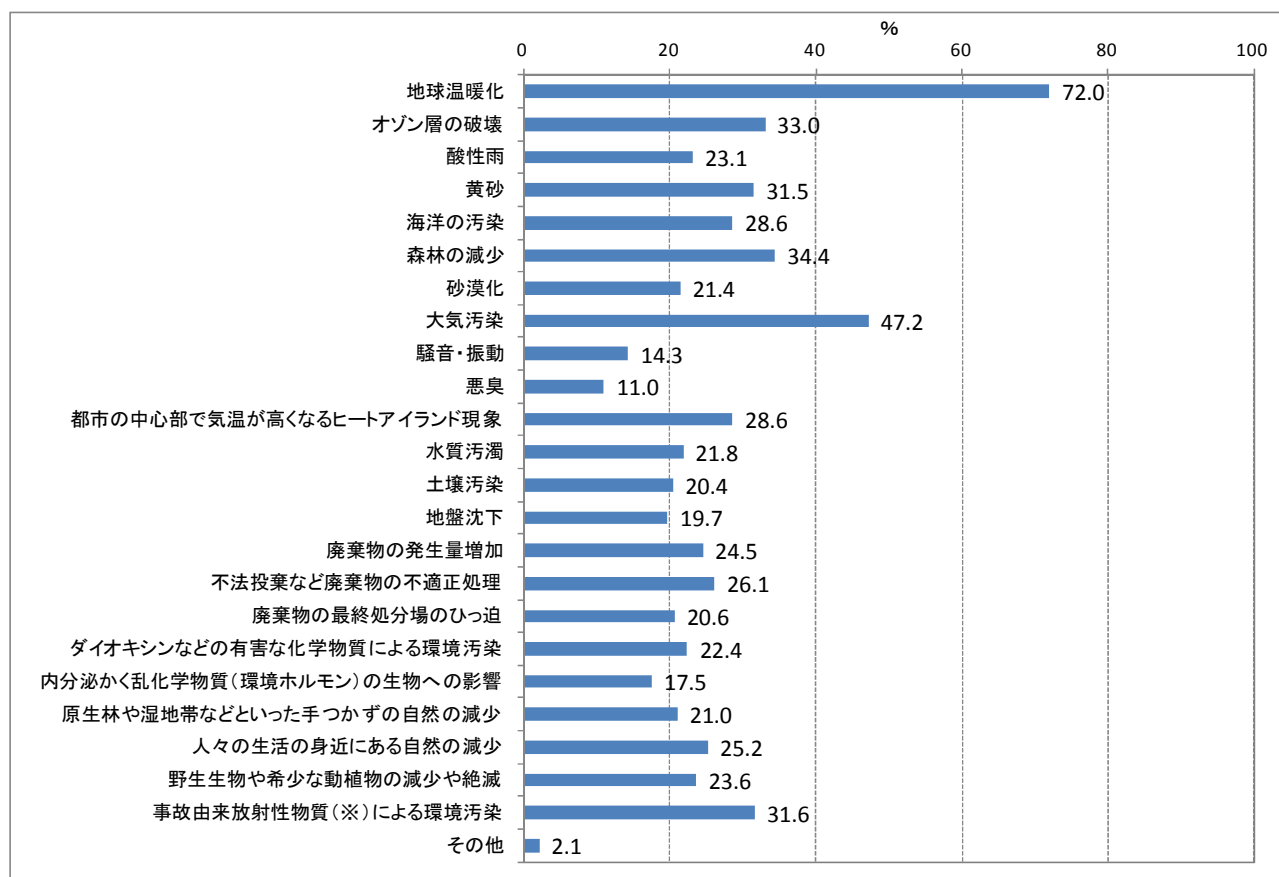


図1 関心のある環境問題

※「事故由来放射性物質」とは、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により当該原子力発電所から放出された放射性物質。(以下同じ)

表 1 関心のある環境問題の変化

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
H9年度	廃棄物やリサイクル	地球温暖化	ダイオキシン等の化学物質			
...						
H13年度	地球温暖化	オゾン層破壊	不法投棄	廃棄物発生量	ダイオキシン等の化学物質	水質汚濁
H14年度	地球温暖化	オゾン層破壊	大気汚染	不法投棄	廃棄物発生量	水質汚濁
H15年度	地球温暖化	オゾン層破壊	不法投棄	大気汚染	水質汚濁	廃棄物発生量
...						
H18年度	地球温暖化	オゾン層破壊	森林減少	大気汚染	不法投棄	海洋汚染
H19年度	地球温暖化	オゾン層破壊	大気汚染	森林減少	海洋汚染	砂漠化
H20年度	地球温暖化	森林減少	オゾン層破壊	砂漠化	大気汚染	廃棄物発生量
H21年度	地球温暖化	森林減少	オゾン層破壊	大気汚染	動植物の減少・絶滅	海洋汚染
H22年度	地球温暖化	森林減少	大気汚染	身近な自然の減少	オゾン層破壊	ヒートアイランド
...						
H24年度	地球温暖化	事故由来放射性物質	大気汚染	森林減少	オゾン層破壊	海洋汚染
H25年度	地球温暖化	大気汚染	事故由来放射性物質	森林減少	黄砂	オゾン層破壊
H26年度	地球温暖化	大気汚染	森林減少	オゾン層破壊	事故由来放射性物質	黄砂
H27年度	地球温暖化	大気汚染	森林減少	オゾン層破壊	事故由来放射性物質	黄砂

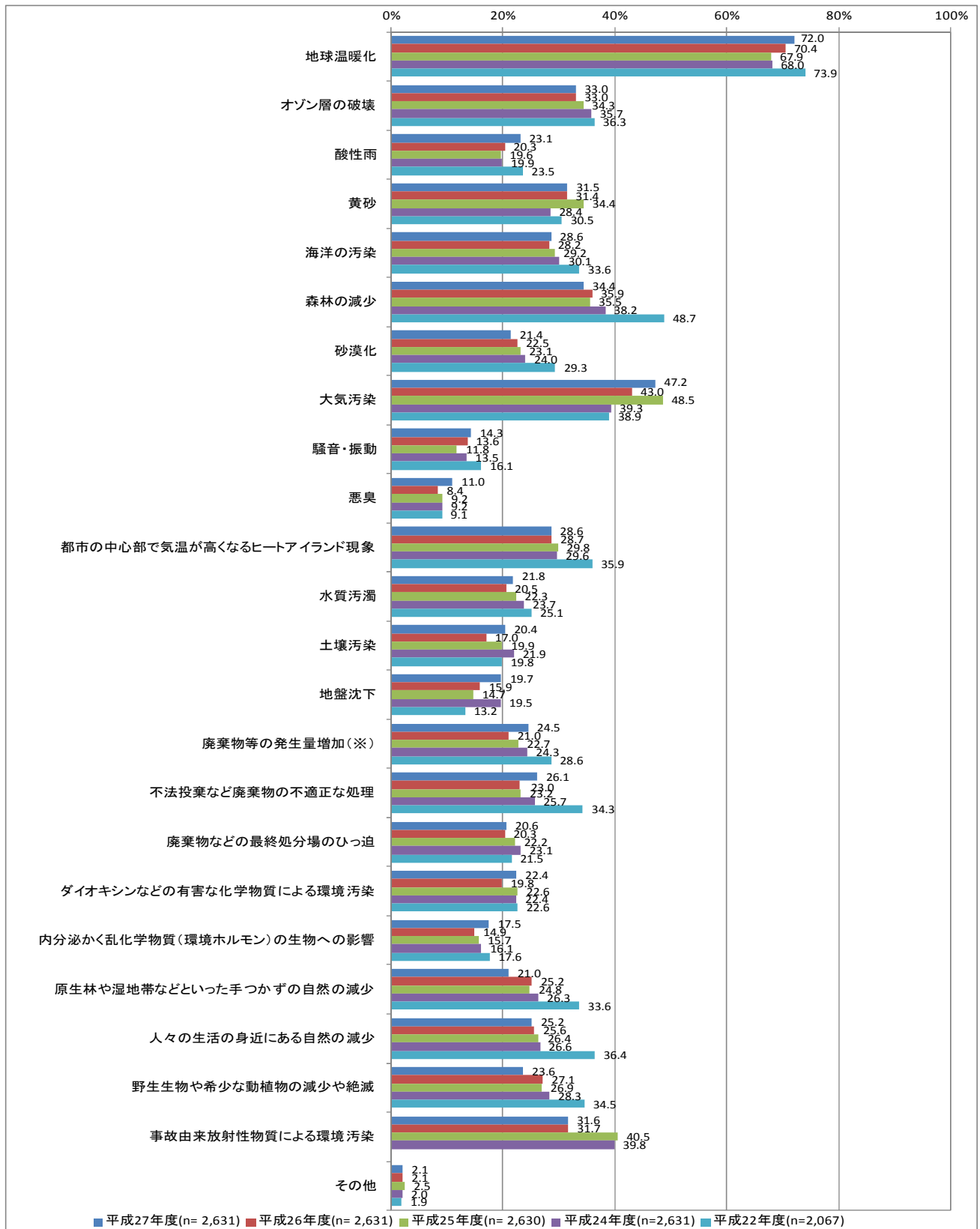


図 2 関心のある環境問題の変化(時系列)

※「廃棄物等の発生量増加」は、H20年度は「廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進」という選択肢であった。

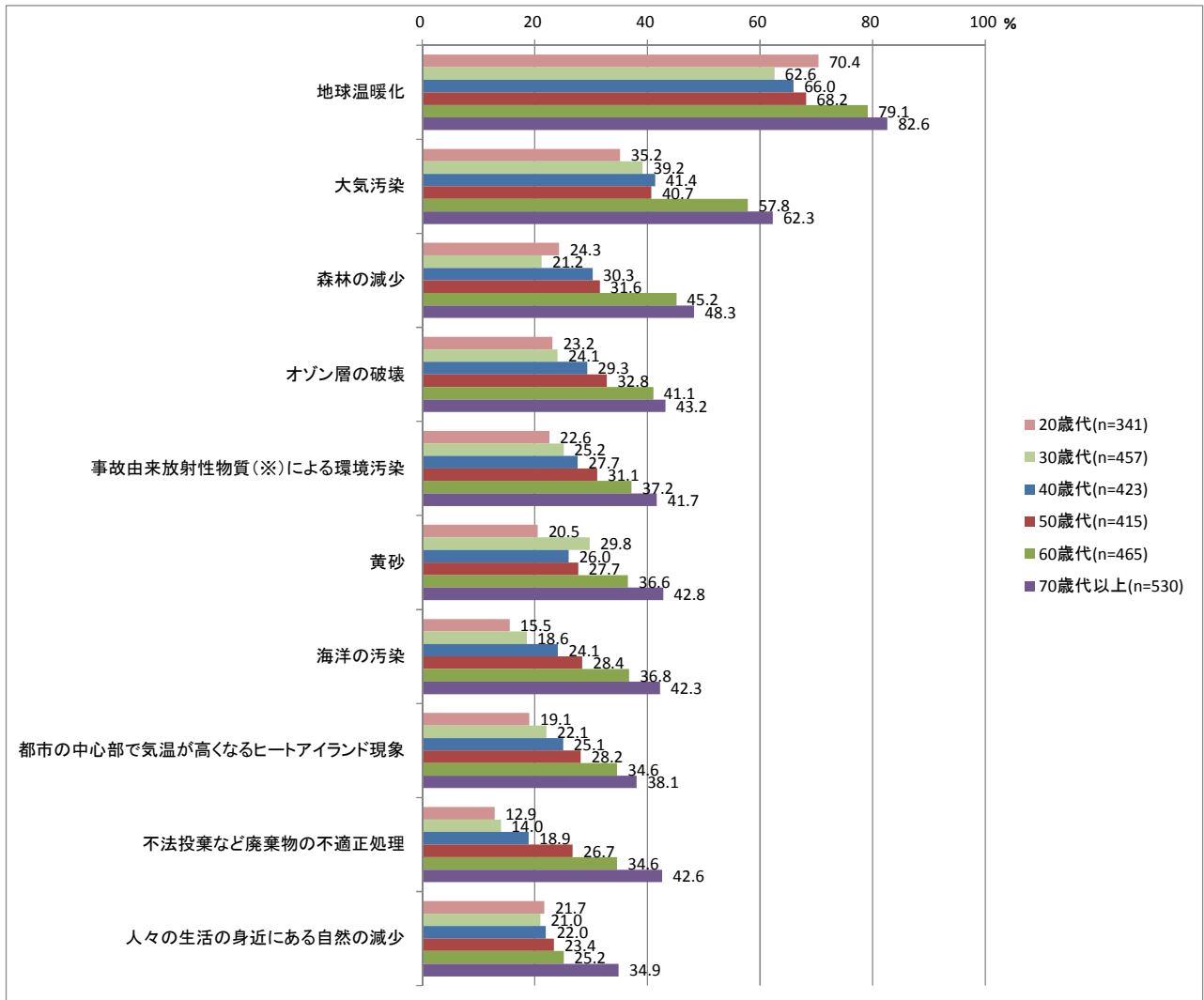


図 3 関心のある環境問題（年代別、全体上位 10 位まで）

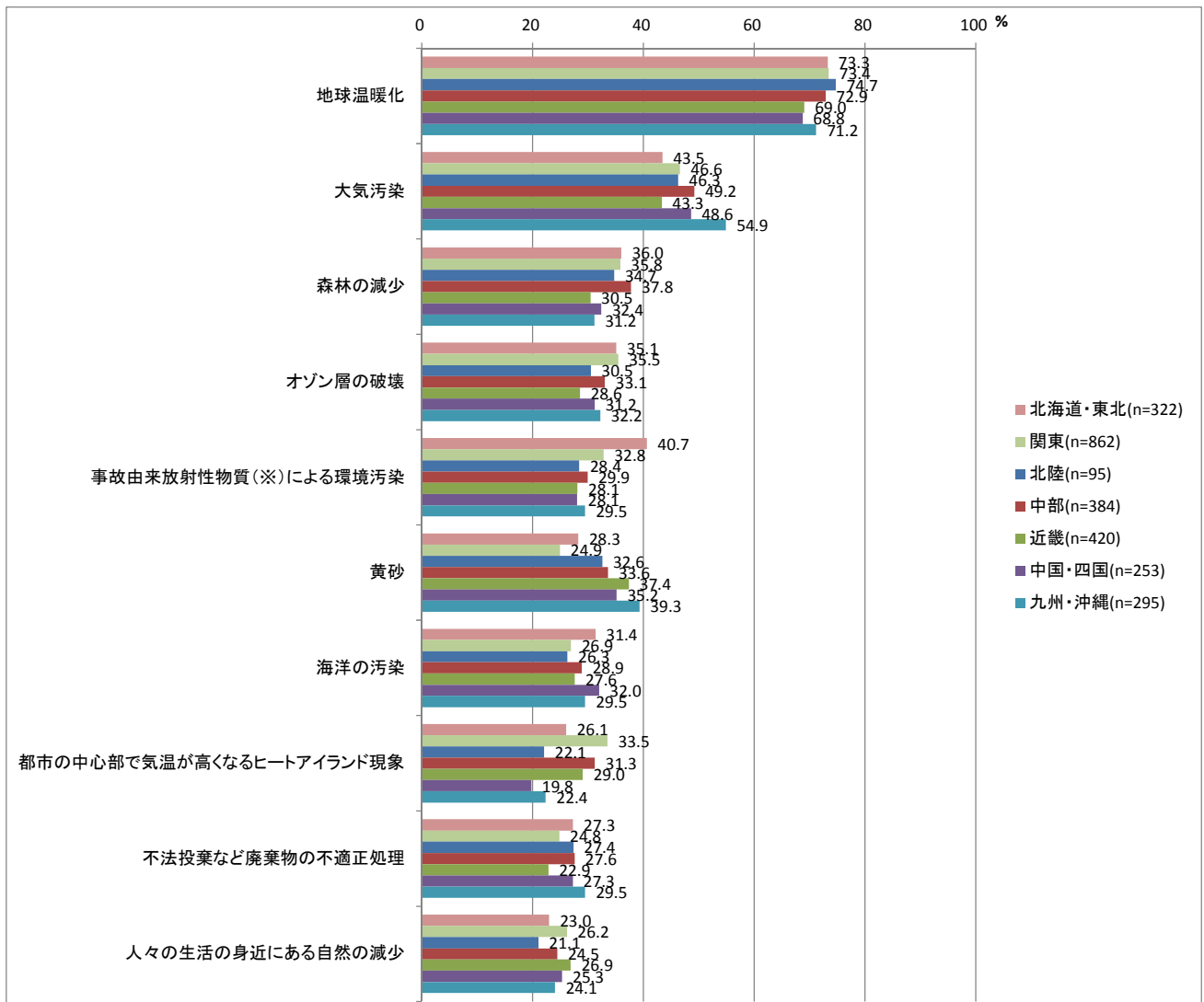


図 4 関心のある環境問題（地域別、全体上位 10 位まで）

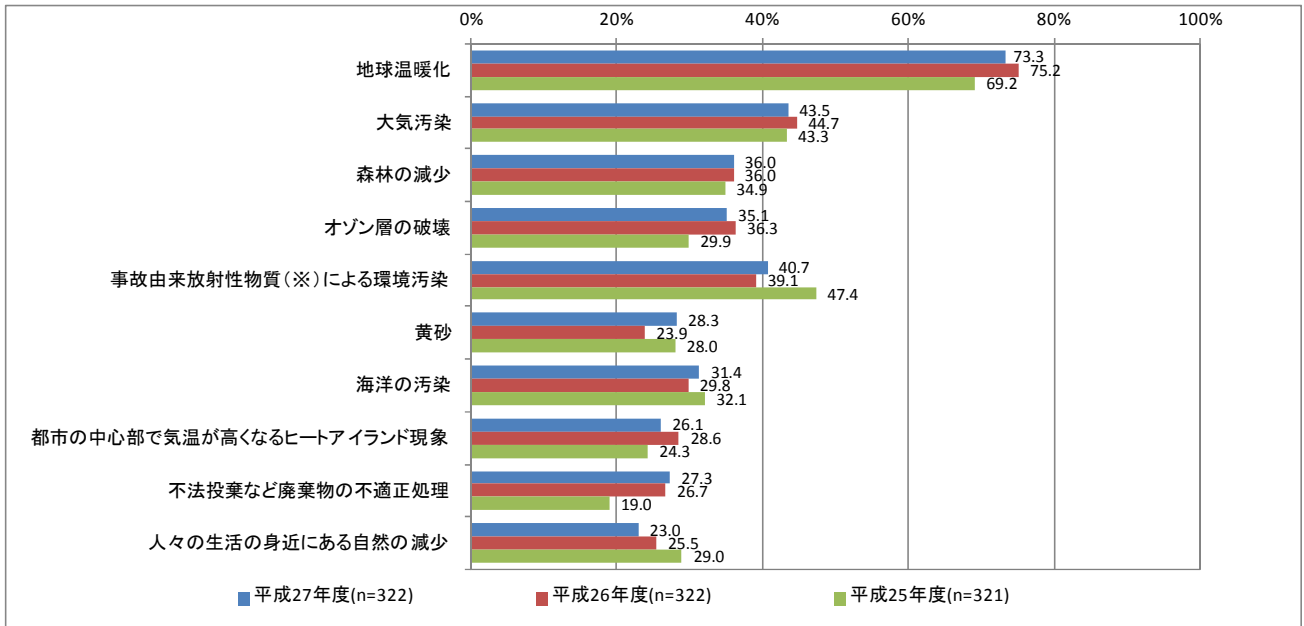


図 5 関心のある環境問題の変化（時系列、北海道・東北、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

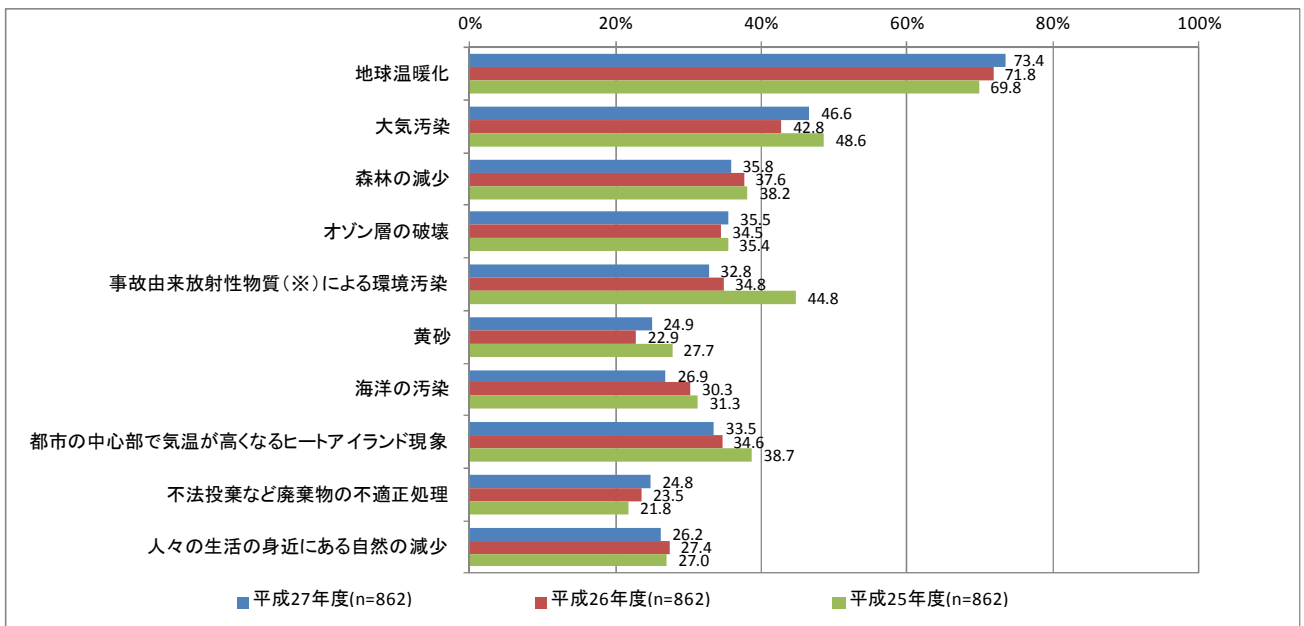


図 6 関心のある環境問題の変化（時系列、関東、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

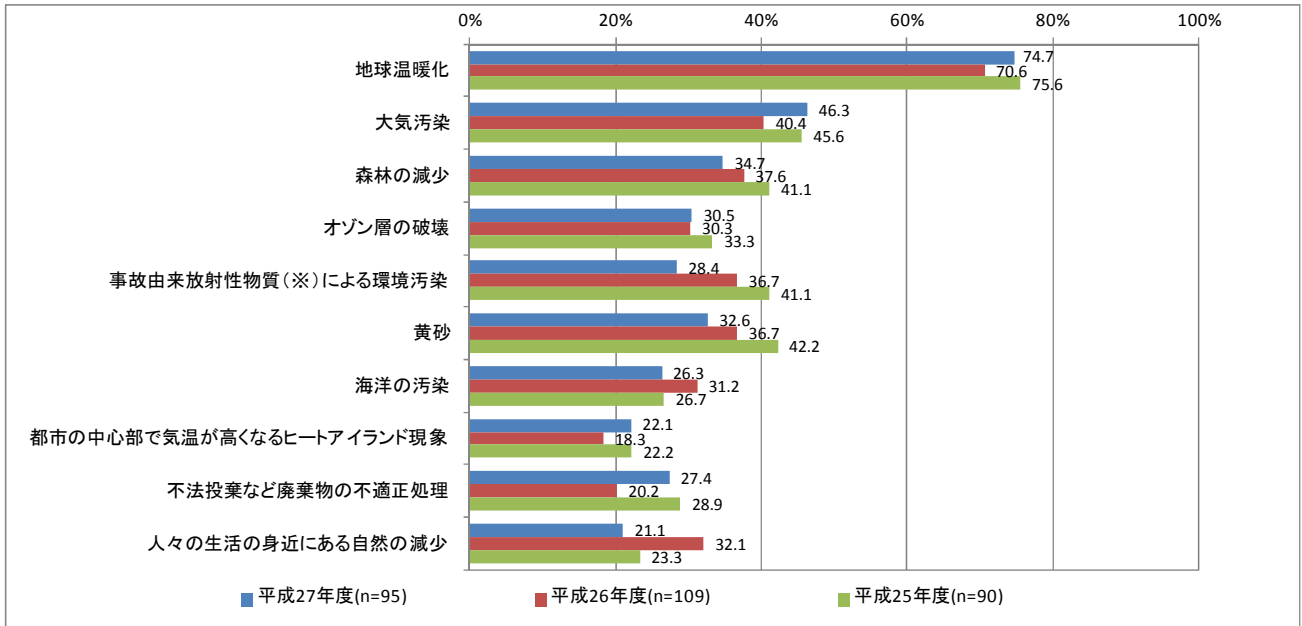


図 7 関心のある環境問題の変化（時系列、北陸、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

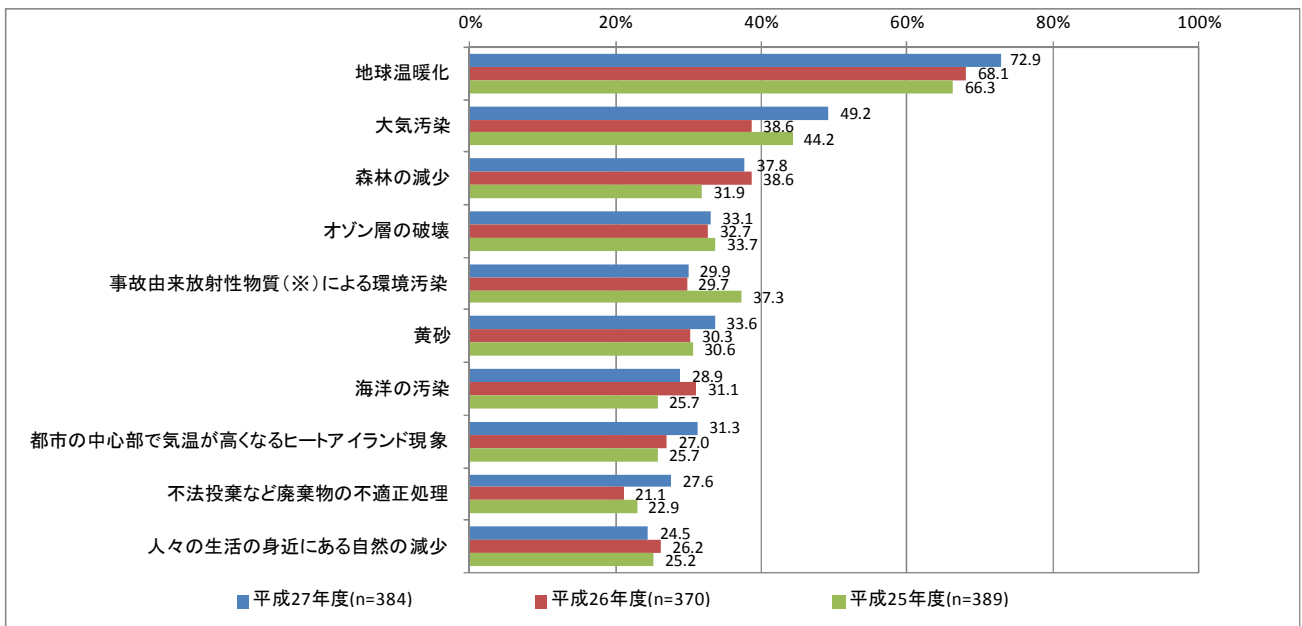


図 8 関心のある環境問題の変化（時系列、中部、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

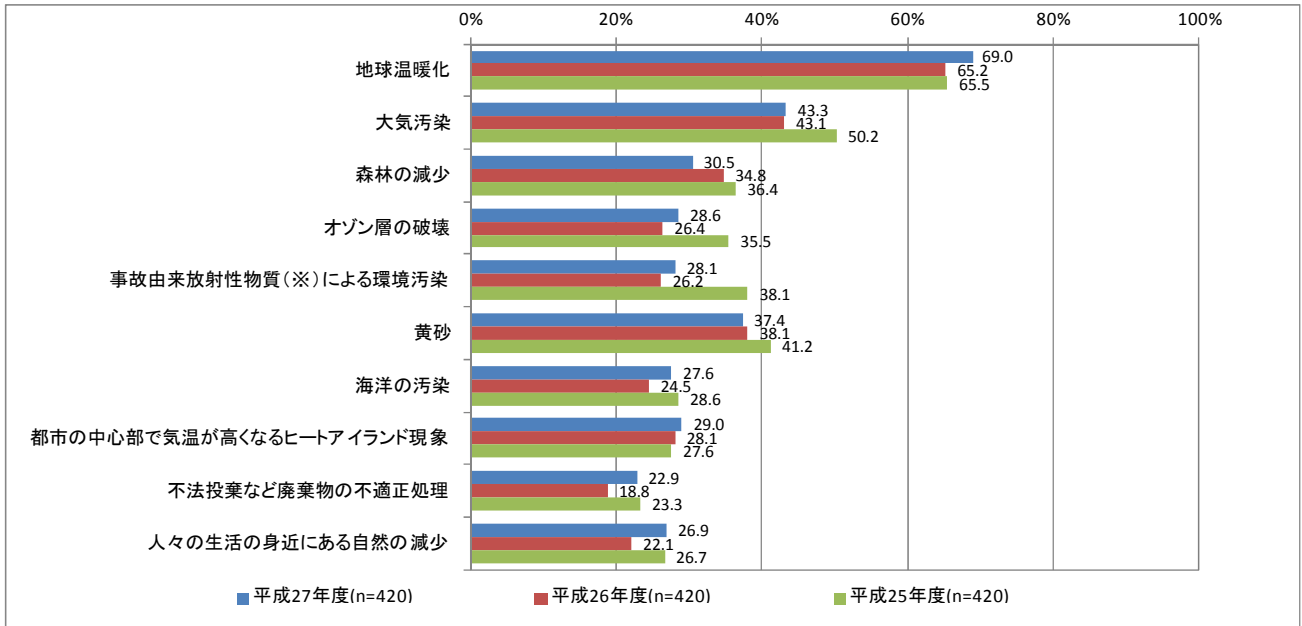


図 9 関心のある環境問題の変化（時系列、近畿、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

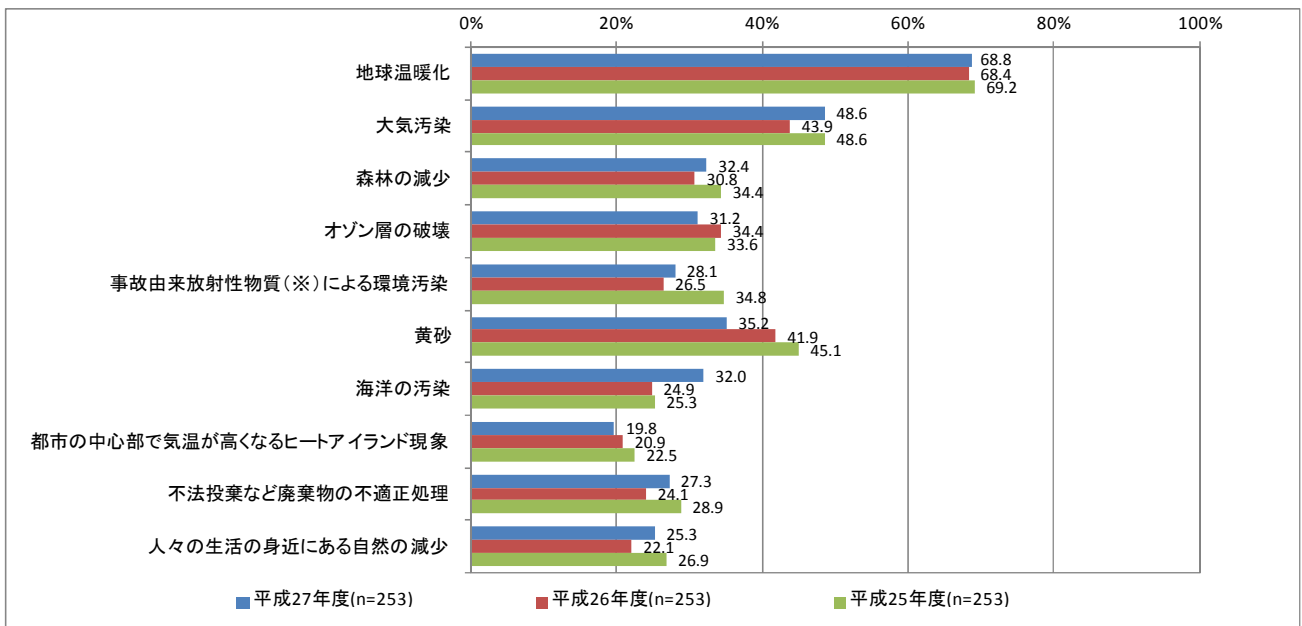


図 10 関心のある環境問題の変化（時系列、中国・四国、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）

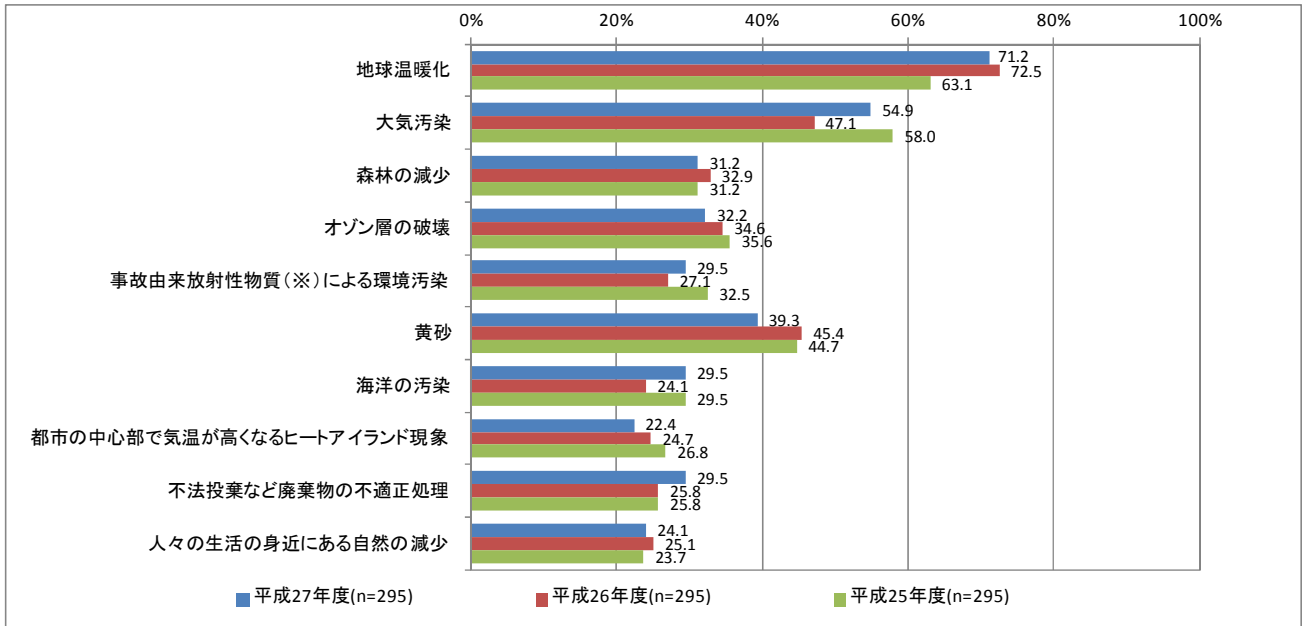


図 11 関心のある環境問題の変化（時系列、九州、平成 27 年度の全体での上位 10 位までの項目）